

2024 年 5 月 22 日

2023 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名.....学童保育げんこつ組
 代表者・役職名 氏名 代表 中村なつ...

1. 助成プロジェクト名

生きづらさを抱える中学生のための居場所づくりの拡充

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1987年、同敷地内にあるはちのこ保育園卒園生の保護者の、学校に入っても放課後はのびのびと自然と友達に存分に触れて過ごせる場がほしいという願いから設立しました。現在小学生の在籍児は33名で昨年度から15名前後の中学生も在籍。遊びを通じて様々な体験をして育つことを大切にしています。保育園生や同敷地にあるNGOに来る外国籍の人等、日常的に多様な人に触れて過ごしています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

一昨年から助成をいただいて、中学生も学童保育にいつでも寄れるようにし、中学生の居場所機能も持つようになりまし。呼びかけると、予想より多くの子が学校の帰り等に寄り、小学生と遊んでくれながら中学生同志やスタッフにいろいろな話をしていく姿を見て、中学生は中学生だけでゆっくりといろいろなことを共有する時間が必要なのではないかと考えました。また、学校以外の価値観に触れる機会もつくり、学校で求められることでは頑張れなくても、自己肯定感をもって学歴の序列にとらわれない生き方も考えられる場をつくりたいと考えたためです。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・(月)~(金)の14:00~18:30と土曜日の日中はいつでも来所可能とし、おやつや昼ご飯を提供しました。そしてそれぞれの得意なことで小学生の遊び相手になってもらいました。
- ・毎週水曜日は18:30~20:30を中学生と卒業した高校生のクラスとし、軽食やおやつを食べながらゆっくり過ごして交流し、4月と11月に夕食会を開いた他、クリスマス会も行いました。
- ・小学生の新生活歓迎会や夏の全体キャンプ、高学年キャンプ、お別れ遠足に声を掛け合って参加し、小学生の遊び相手やスタッフの手伝いもしながらお互いの交流を深めていました。

以上の他、日常的にOBの大学生も寄って交流してくれたり、特色ある高校の先生のお話を聞く会も実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

お盆と正月期間以外は、毎週水曜日の夜に中学生クラスを開所し、1回の参加者は6人~10人、夕食会やクリスマス会は10人以上の参加があり、在籍者は17名となりました。ゆったりと過ごし、いろいろな話ができていました。また、学校では勉強についていけない子が、特色ある高校の先生のお話会に参加していろいろな高校があることを知り、自信をもったことも嬉しいことでした。昨春高校に進学した子もOBとして通っていて、小学生にも中学生にも慕われています。年下の子の面倒をみることは自己肯定感を育て、自信にもつながっているようです。また、中・高生と接することは、小学生には中学校への漠然とした不安をやわらげ、安心感を与える効果もあるようです。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

水曜日の夜は遅くなりがちなことや気になるところなので、各家庭と連絡を取り合い、状況の把握をしていただきながら、理解を得るよう努めていきたいと思ひます。今後もう少し規模を広げ、げんこつ組の卒業生のみでなく地域の中学生にも呼び掛けていきたいと思ひはあるのですが、それには現在のスタッフ一人体制では無理があり、増員が必要です。また、このクラスに来ている子が学校に行けなくなった場合に、日中に来て保育園のボラン

ティアや野外学習などいろいろな過ごし方が考えられますが、それにつきあう専任のスタッフも必要です。それに伴い、人件費の捻出等も課題となります。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

